

令和7年度学校評価報告書

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

(1) 主体的に学ぶ力の育成と他者と共に生きる力の育成 (2) 未来を切り拓く力の育成と地域に根ざした教育の実践 (3) スクール・ミッションを実現する組織運営 (4) 教職員の資質向上と健康管理

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校全般領域	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校までの学びの成果・課題を踏まえた授業改善を推進し、「総合的な学習」学びの10年ロードマップを作成するなど、小中高連携による連係体制の構築を図った。 ・ホームページやnoteを活用して地学協働的な教育活動の情報を随時更新するとともに、報道関係を活用した発信を積極的に行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後はロードマップに出てくる事業者どうしのつながりが図れないか。 ・地域との協働による取組は大変素晴らしい。今後は小中高だけでなく、子ども園の取組との接続を図って18年間での育成を進めてほしい。
改善方策	ホームページやnote、報道機関等を活用した広報活動を引き続き継続し、地域と共に歩み、生徒が成長している学校であることを管内、全道、全国に広く伝えていく。	
学習指導領域	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲に関して、大学進学希望者とそれ以外で大きな差が出てきている。 ・つべつ学のカリキュラムにおいて分野ごとに学びの質に差がある。 ・学びの保障を図り、観点別評価や出欠の取扱いに関する内規の見直しを進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公設民営塾の利用には、学校から塾までの距離、アクセスの問題がある。津別町巡回バスや、電動キックスクーターの活用などを要請すると良いのではないか。
改善方策	進路面談を充実させるとともに、就職希望生徒への継続的な支援を行う。つべつ学における各分野の時数等の見直しを図る。	
生徒指導領域	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の乱れや、規範意識の低さが一部の生徒に見られる。 ・援助希求能力が不足している生徒への「SO Sの出し方教育」を推進することが課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校ゆえの問題として、人間関係が固定化してしまう側面がある。 ・学校だけではなく地域の人や大学生との関わりによって、対話力の向上が顕著である。
改善方策	全教職員で「発達支持的生徒指導」の視点を共有し、組織的かつ継続的な指導を徹底する。	
進路指導領域	<ul style="list-style-type: none"> ・「つべつ学」と進路につながりを持たせていく取組を進めている。高大連携や総合型入試導入を契機に、国公立大学を含めた大学進学者が増えたこと、町内企業とのつながりを深め、町内就職者数も増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内企業職種説明会の参加企業とつながりを深め、インターンシップや町内就職に結びついている。大学入試でも総合型選抜など、多様な学習活動等の成果を活かした人間力育成が求められている。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生は次世代の地域を担う人材であり、「つべつ学」の学びを活かすとともに地元企業との結びつきを深め、町内就職や大学卒業後のIターンやJターンにつなげていく。 	
公表方法	学校ホームページへの掲載	